PREMIUM MAGAZINE

Four Seasons Press Co. ,Ltd.
Tokyo

Editor in Chief : **Mrs Shinobu Mitzutani**

Distribution: **Japan**

Mrs Shinobu Mitzutani guest at Belmond Hotel Cipriani.

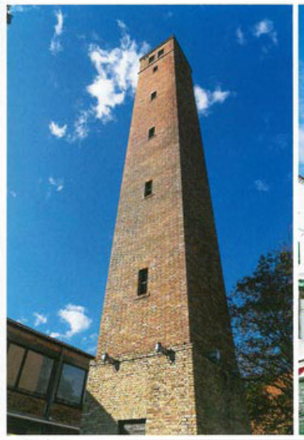
Mrs Mitzutani with others important international journalist gest at Belmond Hotel Cipriani to a detailed article about Belmond Hotel Company and special articles about Venice and its main attractions.
The Concierge Roberto called for a last minute **Seguso Experience** describing it as the best way to discover the glass blowing tradition and the Seguso heritage. They had also the opportunity to meet Mr Giampaolo Seguso and to discover his art works.

ABOUT PREMIUM MAGAZINE

High end and luxury glossy paper.
Article in the same issue about:
LOUIS VUITTON Foundation
VAN CLEEF&ARPELS
CHAURET
Hotel PLAZA ATHENE
LA MAISON CHAMPS ÉLYSÉES
ORIENT EXPRESS JOURNEY LONDON PARIS VENICE
HOTEL CIPRIANI

ムラーノ島 ヴェネチアングラスの名門一族

セグーゾ
Seguso



上右・ヴェネチアングラスの聖地、ムラーの島。上左・受付と展示室がある棟は昔、教会だったそう。
下右・ヴェネチアングラスやセグーゾ・ファミリーの歴史を展示。下左・美しいガラスアートも展示。

「ベルモンド ホテル・チプリアーニ」のコンシェルジュはじつに優秀で、念願だった私たち美プレミアムの願望を叶えてくれました。それは「ヴェネチアングラスの聖地ムラーノ島で、最高のヴェネチアングラス工房を見てみたい！」というもの。

翌日、ホテルに一艘のボートがやって来ました。イタリア美人のカタリーナが務めているのは「セグーゾ」というムラーノ島の中でも名門のヴェネチアングラスファクトリー。「創業は1397年、ムラーノ島から始まりました。創業から600年以上、23代に渡りムラーノ島のヴェネチアングラスの技を継承する名門の工房です。ほら、ここ、1605年にムラーノ島で出版された『ゴールデン・ブック』にもセグーゾ・ファミリーのことが書かれています。もっとも重要なファミリーとして名をあげられているのです」とファクトリーの隣にある展示室で説明を受けます。

当時ガラスは大変貴重で、そのためヴェネチア共和国は1291年、すべてのガラス工を強制的にムラーノ島に移住させ、島外不出の掟をつくりました。一方、ガラス工に褒章や手厚い保護政策をとることで発達を遂げたのです。数百年の歴史を持つ名門のファミリーは、現在ごくわずかでそのひとつがセグーゾ・ファミリーです。

23代目CEO Gianluca Segusoさん。ご兄弟とともにセグーゾ・グループを展開しています。

そこへ23代目のGianluca Segusoさんがご挨拶にやって来ました。「私たちはヴェネチアングラスの伝統と歴史をふまえながら、さらに進化を遂げています。アメリカにも事業を展開し、世界にヴェネチアングラスの美しさをシェアしています。テーブルウエア、シャンデリア、インテアリア・オブジェなどを制作しています。我々が大切にしているのは4つの事。先人たちから受け継いだものをリスペクトして誠実である事。職人の技術を大切に守る事。マスターと呼ばれる磨き上げられた技術を持つ職人になるにはおよそ30年かかります。また、美をつくりだすことが我々の使命です。そして持続可能な事。ビジネスとして成り立たせ、後世までヴェネチアングラスの素晴らしさを伝えていく事です」

話が一段落するとカタリーナがいいました。「では、いよいよ工房へとご案内いたしましょう。準備はいいですね？」そして重い扉が開かれました。

Seguso
www.seguso.com

テーブルの上に描かれたラフ画。こんなアイデアから作品が創られます。

ジャーン、ここが工房です！ 映画のセット？ と思うほど、天井にはヴェネチアングラスのシャンデリアが飾られ、ドラマティックな音楽が流れています。真っ赤な火が見える炉から取り出された棒を職人がくるくると回すと、魔法のようにガラスがつくられていきます。カッコイイ！「砂、火、魔法のパウンド、空気、水、最後に人の息が入ることで完結します。職人にはよい環境で働いてもらいたい。だって美しいものをつくるのですから」とGianlucaさん。職人は3人一組のチームで動き、マスターにふたりのアシスタント。息の合ったチームワーク！ すごい体験でした！…しかし、じつはこれで終わりではありませんでした。「よろしかったら、父のアトリエに寄っていかれませんか？」と、お招きを受けたのです。

息の合ったチームワーク！

イライトの
ナルを「富
ばれたリア
ぞみます。

右・Giampaoloさんのアトリエ。中・世界的に知られるヴェネチアングラス・アー
の22代目Giampaolo Segusoさん。左・Giampaoloさんからいただいた詩の刻ま

う〜〜む、
詩を考え中。

Giampaolo Segusoさん。カタリーナがコーヒーをだしてくれたのですが、先ほどまでとは様子が違いGiampaoloさんの前では緊張している様子。あ、そうか、この方がさっきカタリーナが説明してくれた1993年に「Seguso Viro」というセグーゾ・ファミリーにとって画期的なブランドを立ち上げた方なのね。古代の技法を使ってコンテンポラリーな作品を創り上げ、その芸術的な作風はイタリアだけでなく、世界中に認められている方。詩人でもあり、その作品の特徴はガラスに詩を刻むのだそうです。

名刺をさしだし自己紹介をすると目をとおし「さて、何を聞かれたいのですか?」とGiampaoloさんは穏やかにたずねられました。「あなたにとって美とは何ですか?」

しばらく考えてGiampaoloさんは答えます。「私にとって美とはメタフィジカル（形而上学＝人間の存在の理由や意味など、見たり確かめたりできないものについて考える）なものです。本当の美とはスピリチュアルなものではないかと思っています。私は自分が創るガラスに詩を刻みます。この作品の詩をちょっと読んでみましょうか」とイタリア語で詩を朗読してくれました。英訳を見ると、それは美をテーマにしたものでした。

次に蝶をモチーフにしたガラス作品を見せてくれて「数年前に他界し霊の力というものでしょうか。

Giampaoloさんはイタリア語が混じりながらの英語、そしてこちらも日本語混じりのお粗末な英語。言葉上では不完全な交流なのに、とても楽しく会話は弾み、幸せな時間が流れていました。

Giampaoloさんはメモ用紙に何かを書き始め「詩が浮かんできます」といいました。そして「ちょっと待っていてくださいね」といって足早に部屋をでていきました。カタリーナが戻って来て「コレクションを展示している他の部屋をご案内しますね」と、家具やオブジェなど、素晴らしいコレクションを見せてくれました。帰り際、Gianlucaさんにお礼を申し上げていると、Giampaoloさんが息を切らせながら戻ってきて「これが私の名刺です」といい、ガラスの破片を差し出しました。「先ほどの詩をいま焼き付けてきました」

キラキラと光る美しい破片にはこんな詩が書かれています。「美とは時々、その存在が見えなくなる。でも、それはいつもあなたと共にいる」

——600年という時を越え、ヴェネチアングラスの歴史の美を今に伝え続けるムラーノ島の名門セグーゾ・ファミリーとの素晴らしい出会いでした。